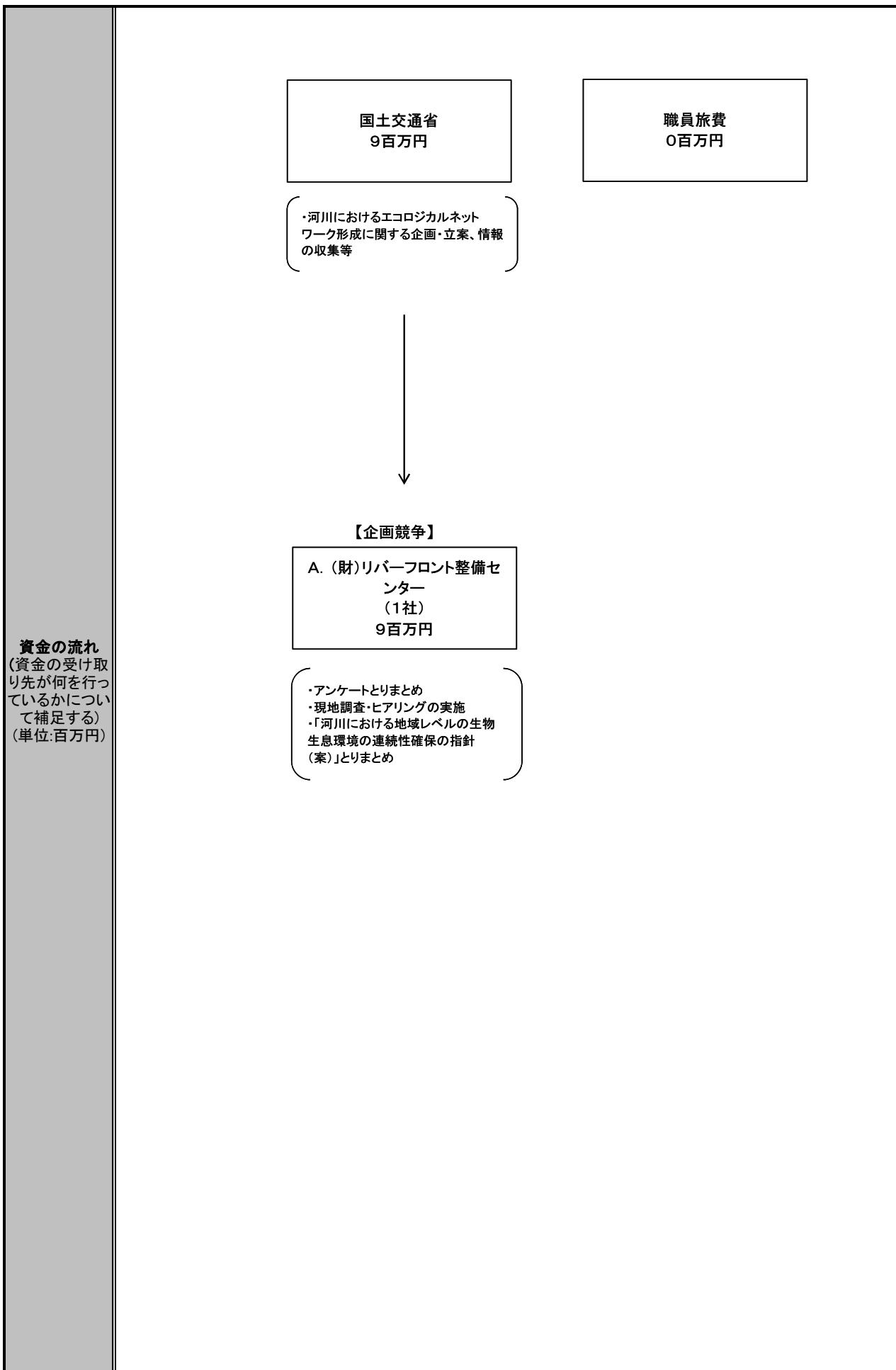


行政事業レビューシート					(国土交通省)
予算事業名	河川におけるエコロジカルネットワーク形成経費	事業開始年度	平成20年度	作成責任者	
担当部局庁	河川局	担当課室	河川環境課	課長 中嶋 章雅	
会計区分	一般会計	上位政策	良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワークの形成、適正な汚水処理の確保、下水道資源の循環を推進する		
根拠法令 (具体的な条項も記載)	河川法第1条	関係する計画、通知等	生物多様性国家戦略		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	本調査は、河川におけるエコロジカルネットワークの形成(河川と農業水路・水田等との間において、樋門・樋管等により分断された生物の生息・生育空間を相互に連結すること)を促すことにより、河川を中心とした地域における生態系及び生物多様性の回復・保全を図ることを目的とする。				
事業概要 (5行程度以内。別添可)	河川と農業水路・水田等との間における生物の生息・生育環境の相互の連続性の確保について、評価手法及び求められる技術を検討するため、各地方整備局等を対象とした取組状況のアンケート調査をとりまとるとともに、詳細調査及び課題の検討を行い、「河川における地域レベルの生物生息環境の連続性確保の指針(案)」を作成する。				
実施状況	平成20年度は、河川における生物の生息・生育環境の評価手法について、海外も含めた先進的な事例等の既往知見を収集し、国内河川への適応に向けた検討を行うとともに、その検討結果をもとに、試行的に2河川において評価を行い、評価手法の妥当性の検証を行った。 平成21年度は、全国18河川における生物の生息・生育環境に関する課題と地域の取組状況を整理した。うち3河川において、現地調査及びヒアリングを実施し、その取組内容の詳細調査や樋門・樋管等の構造的課題・改善策の検討を行い、その結果を、「河川における地域レベルの生物生息環境の連続性確保の指針(案)」としてとりまとめた。				
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度
	予算額(補正後)	-	13	10	
	執行額	-	12	9	
	執行率	-	92.6%	90.6%	
	総事業費(執行ベース)	-	-	-	
自己点検 支出先・使途の把握水準・状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>打ち合わせ協議により全体計画、業務の進捗状況等の把握を行い、適正に業務が遂行されているか確認を行っている。</li> <li>業務の主たる部分に係る再委託は禁止されており、主たる部分以外の再委託については、軽微なもの(印刷、製本、計算処理、参考書籍・文献購入、消耗品購入、会場借上等)を除き再委託承諾申請書を提出させることになっており、打ち合わせ協議により、再委託の有無や内容について確認を行っている。</li> </ul>				
自己点検 見直しの余地	今後においても調査手法等の改善を通じ、効果的・効率的な事業遂行に努める。				
予算監査の所効見率化					
補記	<p>【予算科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>071 水環境対策費           <ul style="list-style-type: none"> <li>05-95 良好な水環境の形成等の推進に必要な経費 (21年度予算額) 0百万円 (21年度決算見込額) -</li> <li>95016-2129-06 諸謝金 0百万円</li> <li>95016-2122-08 職員旅費 0百万円</li> <li>95016-2122-08 委員等旅費 0百万円</li> <li>95016-2123-09 水環境対策調査費 9百万円</li> </ul> </li> </ul>				



費目・使途 〔資金の流れ〕においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)	A.(財)リバーフロント整備センター			E.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	調査費	河川におけるエコロジカルネットワーク形成方策検討業務	9			
	計		9	計		0
B.			F.			
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	計		0	計		0
C.			G.			
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	計		0	計		0
D.			H.			
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	計		0	計		0